



多職種連携の共通言語はフィジカルアセスメント！ ～患者状態や家族背景を共有する重要性を知ろう～

多職種連携チーム医療の中で、医師、看護師とは違う、薬剤師のフィジカルアセスメント目的（薬物療法の副作用発見、効果判定）を認識し、実症例を用いて問診、検査から診断、治療の流れを学びます。薬剤師が医師の処方設計の過程を理解することで、安全で最適な薬物治療を目指した、よりの確な処方提案を可能にします。

開催日程	2020年4月12日（日）	10:00～16:00
開催場所	本学 愛学館3階 A31講義室	定員 100名
受講料	5,000円	認定単位 G24 3単位
申込受付	2020年2月12日（水）～3月30日（月）	
申込方法	ホームページよりお申込みください。 https://skc.kyoto-phu.ac.jp/	
講師	JCHO京都鞍馬口医療センター JCHO京都鞍馬口医療センター 医療法人橘会 東住吉森本病院 京都薬科大学 病態生理学分野 京都薬科大学 臨床薬学教育研究センター	血液内科 医師 がん看護専門看護師 薬剤科 主任 准教授・医師 講師 薬剤師・救急救命士
		淵田 真一 先生 門田 典子 先生 佐古 守人 先生 細木 誠之 先生 今西 孝至 先生

時間	プログラム
10:00 -12:00	【I】フィジカルアセスメント総論 ～医師・看護師・薬剤師のフィジカルアセスメントの目的を知ろう～ 1) 医師のフィジカルアセスメント ・病態把握のための問診の仕方とポイント 2) 看護師のフィジカルアセスメント ・家族的背景、社会的背景を含む情報収集の仕方とポイント 3) 薬剤師のフィジカルアセスメント ・薬の適正使用につながるフィジカルアセスメント ・バイタルサインを測定する簡易な医療機器の使用法 4) まとめ 多職種の共通言語「フィジカルアセスメント」を薬剤師も行う
13:00 -15:50	【II】疾病の基礎 ～患者が示すバイタルサインと症候から処方を提案してみよう～ 1) よくみる症候から診断・治療への考え方 ・医師はこう考える「症候学の理論」 ・臨床推論力を身につけよう「見て触れるだけで、ここまでわかる患者の状態」 ・看護師はどこに注目する「症状別看護」 2) <SGD>症例検討から処方設計へ
15:50 -16:00	全体を通しての質疑応答、講評

※プログラム内容等は変更される場合があります。

